

2022年3月

2021年度地域日本語教育推進モデル地域（瀬谷区）事業  
瀬谷区日本語ボランティア入門講座フォローアップ研修  
日本語教室 「せやでつながる 暮らしの にほんご」実施報告

公益財団法人横浜市国際交流協会

地域日本語教育推進モデル地域（瀬谷区）の取組として、「瀬谷区日本語ボランティア入門講座フォローアップ研修」を開催しました。本研修は10、11月に実施した「瀬谷区日本語ボランティア入門講座」受講者から参加者を募り、地域日本語教室の体験をすることでボランティア活動に具体的なイメージを持ってもらい、今後の交流や活動につなげることを目的としました。同時に、日本語学習を希望する外国人には実生活の場面や生活課題と結び付けた活動を通して、日本語学習機会や地域に住む日本人との交流機会を提供しました。

【事業目的】

- 1 瀬谷区近郊の人々が集い日本語での会話を楽しみ、今後の交流につなげる。
- 2 受講者は教室の準備や進行を体験し、サポーターの活動を知る。
- 3 学習者は生活で使う日本語を学び、日本語でできることが増える。話したいことを日本語で伝えられるようになる。

【概要】

研修受講者にとっては地域日本語教室の体験、また、学習者にとっては日本語学習の機会となる「日本語教室体験研修」として行いました。

研 修

- 講座名：瀬谷区日本語ボランティア入門講座フォローアップ研修
- 日 時：2022年1月16日、1月23日、1月30日、2月6日、13日 日曜日  
第1、2回 10:00-12:00（120分）  
第3～5回 9:40～12:45（185分）
- 会 場：第1回 瀬谷地区センター  
第2～5回 オンライン（Zoom）  
\*当初全日程会場開催のところ、感染症拡大防止のため第2回以降開催形態を変更。
- 回 数：全5回
- 参加者（研修参加者）：20人（延べ85人）  
瀬谷区内で日本語ボランティアとして活動したい方

日本語教室

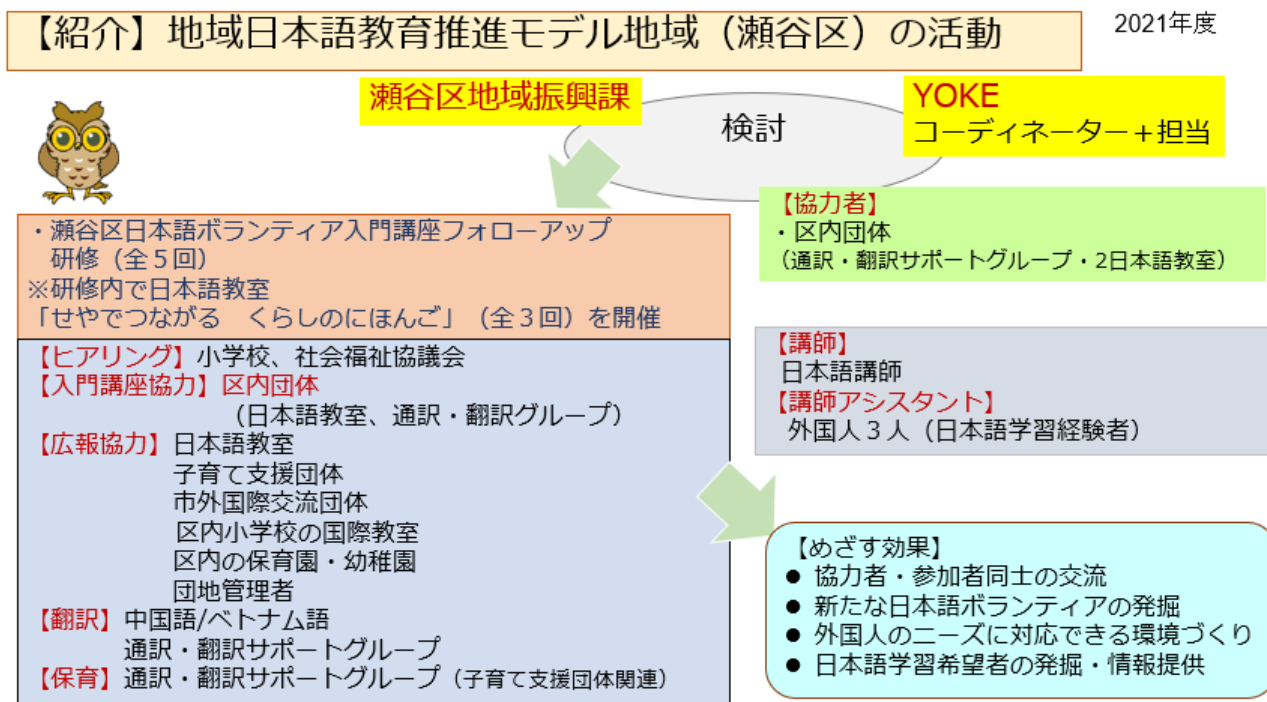
- 名 称：せやでつながる 暮らしの にほんご～みんなではなそう～
- 日 時：1月30日（日）、2月6日（日）・13日（日）10:20-11:40  
\*1月23日は感染症拡大防止のため、中止。
- 会 場：オンライン（zoom）  
\*感染症拡大防止のため、瀬谷センターからオンラインに変更した。
- 回 数：教室 全3回
- 参加者：学習者 5人（のべ10人）  
（中国2、アメリカ1、インド1、メキシコ1）

- 講師アシスタント：3人（のべ4人） \*日本語学習経験者
- テーマ：「わたしのおすすめ」「わたしの好きなこと・趣味」「買い物」

**共通**

- 講師：長嶺 倫子さん 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師  
横浜国立大学非常勤講師  
横浜市国際交流協会（YOKE）日本語教室運営サポーター
- 講師アシスタント：第2回 小池 スモンタさん（通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシエ」）  
第3回 星野 ハイソさん（通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシエ」）  
第4, 5回 薛 芳芳さん（通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシエ」）
- 協力：通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシエ」
- 主催：瀬谷区地域振興課・公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
- その他：横浜市委託事業／令和3年度文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

**【連携図】**



【プログラム内容】

	テーマおよび内容	開催形態	参加者 ①受講者 ②学習者	○講師 ・講師アシスタント
第1回 (1/16)	日本語教室に向けた事前研修 ・入門講座振り返り ・フォローアップ研修趣旨説明 ・第1回教室準備	会場	① 19人 ② ー	○長嶺倫子
第2回 (1/23)	オンライン日本語教室開催に向けた準備 ・第1回教室の内容確認	オンライン	① 19人 ② ー	○長嶺倫子 ・小池スモンタ
日本語教室「せやでつながる 暮らしの にほんご」				
第3回 (1/30)	日本語教室 [1] ・自己紹介 ・瀬谷のおすすめ ・過去、現在、未来	オンライン	① 17人 ② 3人	○長嶺倫子 ・星野ハイン
第4回 (2/6)	日本語教室 [2] ・私の好きなこと、趣味	オンライン	① 15人 ② 4人	○長嶺倫子 ・薛 芳芳
第5回 (2/13)	日本語教室 [3] ・買い物 研修の振り返りと総括	オンライン	① 15人 ② 3人	○長嶺倫子 ・薛 芳芳

## 第1回 日本語教室に向けた事前研修

2022年1月16日

### 事前研修のねらい

- ◆ 日本語教室の活動を進めるためのグループを作ります。
- ◆ 教室で外国人と話すのにどんなテーマがよいのか考え、意見交換します。

第1回は日本語教室での活動に向けたグループ作りをした後に、教室で話すテーマや名札の書き方などについて意見を出し合いました。「国の写真があれば話がはずみそうだから」、「買い物の方法が最近が変わってきているから」など、学習者がたくさん話したくなるようなテーマは何か、生活に必要な日本語は何かという視点からテーマを決定しました。

秋の入門講座はオンライン・会場のハイブリッド開催だったため、初めて参加者全員が会場に集う機会となり、日本人同士でも意見交換や交流を楽しんでいる様子でした。

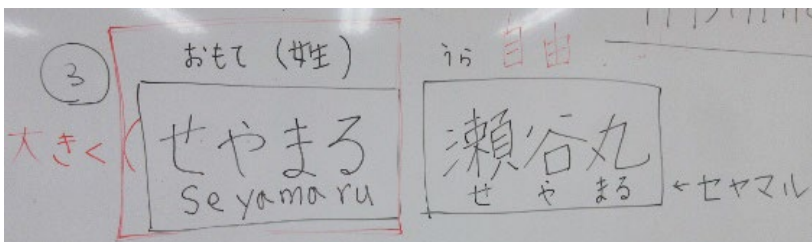
ごみのわけかたって、日本人でも難しいですね、

お国ことをいろいろ話してほしい。

買い物は、みんなしますよね。



(教材例集を見ながら、テーマの検討をしました)



(分かりやすい名札の書き方について意見交換しました)

名札は、表と裏で書き方を変えた方がいんじゃない?

カタカナは必要??

## 第2回 オンライン日本語教室に向けた事前研修

2022年1月23日

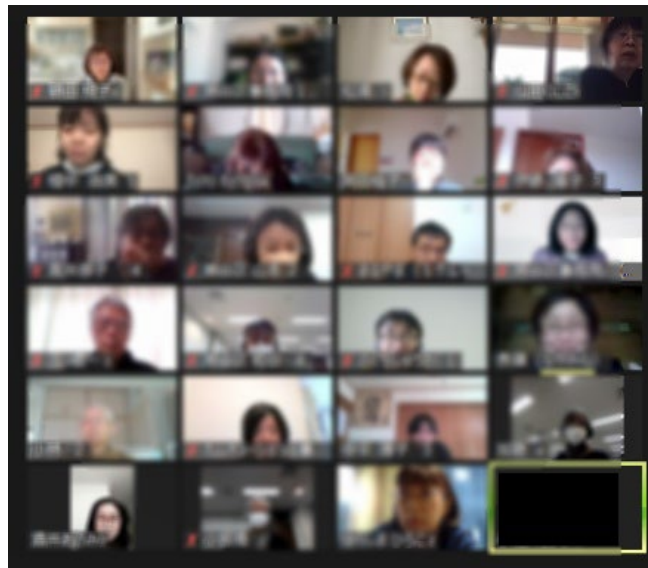
### 事前研修のねらい

- ◆ オンラインでの日本語教室活動を体験します。
- ◆ デモ活動を行ってみて、どうすれば学習者が話しやすいか考えます。

感染対策のため、第2回以降はオンラインでの開催となることが決定しました。そのため、第2回はスタッフを学習者に見立てたデモ教室でグループ活動を行いました。活動後には、「会話ではなく発表のようになってしまった」「やさしい日本語ではなく、つい普通の日本語になってしまう」などの反省点が挙がりましたが、「ワークシートを見せながら話した方がいい」「一つ一つの文を短く話した方がいい」など実際の教室に向けての改善案も出てきました。急遽オンラインに変更になったにも関わらず、皆さんが試行錯誤されながら気づきを得てよりよい教室活動にしていこうという姿勢が見られました。

(第2回からは、外国出身の講師アシスタントも参加しました。外国の方の生の声を聞くことができ、よい刺激になったようです。)

やさしい日本語を話そうと思ってもつい、長い文で、難しい日本語も話してしまいます。



### わたしの おすすめ

なんですか？	
どこですか？	



文をつなげて話すのではなく、「～です」「～ます」と一文だけで終わらせた方がよさそう。

## 第3～5回 日本語教室の流れ

### 教室開始前

《活動の進め方の確認》

受講者がグループ毎にその日の活動内容を確認します。日本語学習経験のある講師アシスタントからは、「その日本語は難しい」、「話すスピードはもう少しゆっくりで」など、アドバイスをもらいます。

- 進行役、タイムキーパーは誰がする？
- やさしい日本語で話せているか。
- 学習者にどんな質問をする？
- 誰から話す？
- 何の写真を持ってきた？

### 日本語教室

#### 1 学習者入室、全体活動

リラックスして話せるよう、自己紹介をしたり、講師が簡単な質問をしたりして会話をしました。

#### 2 グループ活動① → 全体共有

グループ毎に、その日のテーマで日本語の会話をします。活動が終わったらメインルームに戻り、学習者がグループで話したことを発表します。グループで話したことをもう一度話すことで、日本語で伝える練習をします。話したことは、チャットに入力して日本語を確認します。

1回活動が終わった後で全体共有を入れることで、講師のコメントを聞いたり他のグループからヒントを得たりして、2回目のグループ活動に活かします。

#### 3 グループ活動② → 全体共有

第3、4回は活動①と②で学習者のグループを変えました。同じテーマでも学習者が変われば、日本語のレベルも話す内容も変わります。グループ活動では学習者にできるだけ多く話してもらえるよう心がけました。最終回は、同じメンバーでより深く交流できるよう学習者はグループの移動をしませんでした。

### 教室実施後

《活動の振り返り、次回の準備》※第5回は研修の振り返り

教室全体を通しての振り返りをグループ毎に行います。次回どんな風にすればよりよい活動になるのか、話し合います。

- ・英語の使用はどうか？
- ・分からない単語の伝え方をどうか？
- ・学習者が困っている時は、どんな風にフォローしたらいいか？
- ・学習者のレベルによって、活動の進め方をどう変えるといいか？

## 第3回 日本語教室 ①

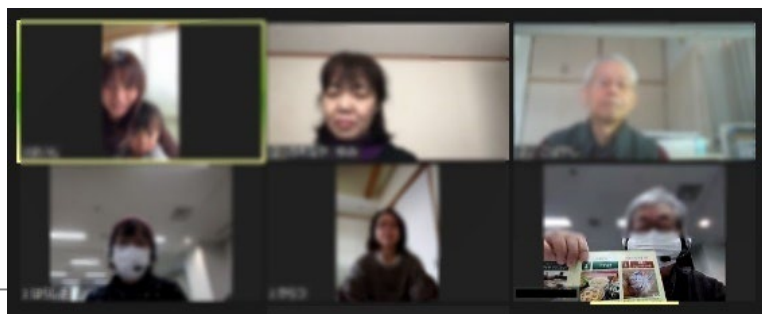
「私の過去・現在・未来」、「瀬谷/横浜のおすすめ」 2022年1月30日

この回のねらい

- ◆ 学習者と受講者が日本語で自己紹介をして、互いに知り合います。
- ◆ 学習者は、日本語で自分のことを伝えます。 ◆ 受講者は教室の進行を体験します。

第3回からは学習者さんに来ていただき、実際に日本語教室が始まりました。初回は、入門講座の交流会でも話した「私の過去・現在・未来」「瀬谷/横浜のおすすめ」をテーマにグループ活動を行いました。

「ベトナムや中国では、明日がお正月です。」「毎日カレーを作ります」「幼稚園で英語を教えます」など、学習者の生活について話が弾みました。風邪で声が出づらい学習者とはチャットを使いながら話したり、言葉が出て来ず英語で話したら後で日本語で言い換えたり、それぞれのグループが工夫しながら日本語での交流を楽しみました。



ワークシート1

私の過去・現在・未来  
My past・present・future

私 の 過去 現在 未来  
Wa ta shi no ka ko ge n za i mi ra i

2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

Past 過去	Present 現在	Future 未来
わたしは _____ ました。	わたしは _____ ます。	_____ ます。
わたしは _____ でした。	わたしは _____ です。	_____ です。
		_____ たいです。
		_____ たいと思います。

※辞書、発音、発音、発音、発音……

※毎日、なにをしますか？

※今晚、明日、来週、暮休みの、来月……

### 講師アシスタント

#### Aさんからのコメント

教室に来たら、「この日本語を覚えた、分かるようになった」と思って帰りたいです。新しい日本語が出てきたら、聞かせるだけではなくて一度言わせてみると、覚えやすいです。

### ■ 受講者の振り返り

- ・こちらがたくさん話過ぎてしまった。
- ・まずはリラックスして話せるよう英語はOKとして、日本語で言い換えた。
- ・分からない単語の伝え方が難しかった。

### ■ 学習者コメント

- ・とても楽しかった。
- ・私には、日本語の語彙や文がもっと必要だと思った。
- ・日本人が話すのを手伝ってくれて、感謝している。

## 第4回日本語教室 ②

### 「私の好きなこと・趣味」

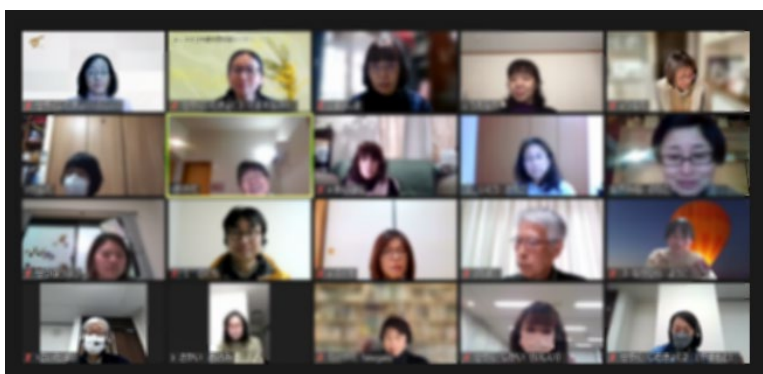
2022年2月6日

この回のねらい

- ◆ 学習者が自分の日本語を使って、好きなこと・趣味を話します。
- ◆ 受講者は、学習者が言いたいことが話せるようサポートします。

「洋裁」、「サッカー」、「習字」、「ブルーベリーを植えること」など、参加者の皆さんが普段楽しんでいることを出し合い、会話を楽しましました。そこから「私は不器用です」「富士山に登りたいです」など、新しい表現や今後やってみたいことにも話が広がりました。

会話が楽しくなり話が弾む一方で、これをどう日本語学習に繋げるのか、と活動に対する新たな疑問も出てきました。受講者からは「講師の先生と学習者のやりとりを参考にしよう」「分かりづらい時は、チャットやホワイトボードを使おう」などの案が出ました。

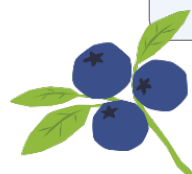


(グループ活動後に話したことを皆で共有します。日本語で伝える練習になるよう、学習者に発表をしてもらいました。)

ようさいが好(す)きです。  
ミシンを つかいます。



ブルーベリーを  
植(う)えています。



#### ■ 受講者の振り返り

- ・学習者にたくさん話してもらえるようにと考えながら活動した。
- ・日本語を知らないだけで、物事を知らないわけではないので勘違いしないようにしたい。

#### ■ 学習者コメント

- ・もっと日本語が勉強したい。  
生活のために、漢字も勉強したい。



## 第5回 日本語教室 ③

### 「買い物」 / 研修総括と振り返り

2022年2月13日

この回のねらい

- ◆ 学習者は買い物の時に使う日本語を学び、日本語でできることを増やします。
- ◆ 受講者は、教室での会話が学習者の学びになるよう、活動を工夫します。  
また、研修を振り返り今後のそれぞれの活動や交流につなげます。

学習者の方から、「こんな時は日本語でどう言いますか？」とたくさん質問が出ました。普段買い物の時に、使いたい日本語が多くあったようです。「大きいサイズはありますか?」「現金で払います」「靴の修理」などの表現を紹介しました。「魚の種類が分からず、いつも鯖ばかり買います」という方もいて、おすすめの魚についても話が出ました。

その後は、日本人が店員役になってロールプレイをし、実際に日本語を使ってみる練習もしました。最終回ではホワイトボードに言葉を書いて見せたり、フィードバックのタイミングを工夫したり、学習者がより話しやすいと感じるためにはどうすればよいのか、学習につなげるためにはどうしたらよいのか、受講者が自身で考え実践をしていました。研修後も日本語ボランティアを続けたいという方も多くいて、希望する方が集まり今後の活動について具体的に検討が始まりました。

学習者の中には聞きたいことを予めメモして参加していた方もいました。「子供が日本語を話せるから特に困っていない」という方もいましたが、いつも買い物の時聞く言葉と教室の日本語がつながり、嬉しそうな表情を見せていました。最終回では「もっと勉強したい」との声があがり、交流や日本語学習を楽しんでもらえたようです

ポイントカードを  
もっていますか

現金(げんきん)と  
カード

げんきんで はらいま  
す

やおやさん

ちゅうごくでは やさ  
いやくだものを さわ  
ります

にほんでは さわりま  
せん

(チャットやホワイトボードに日本語を  
書き出して、文字でも見てもらいました。)

#### 買い物(かいもの:shopping)

- ①どこでかいものをしますか。
- ②なにをかいますか、かいましたか。
- ③いろいろなことば、ひょうげん



#### ■ 受講者の振り返り

- ・グループで仲間意識ができた。
- ・「また来週」と学習者が言ってくれて、嬉しかった。
- ・積み重ねが大切だと思った。

#### ■ 学習者コメント

- ・いろいろな知識をもらえた。
- ・このような機会をつくってくれて、ありがとうございました。
- ・また参加したい。

## 参加者の声

### ○教室の学習者

- ・このようなクラスにもっと参加したいです。
- ・日本語で話すためにいろいろ手伝っていただき、本当に感謝しています。
- ・いろいろな知識をいただきました。ありがとうございました。
- ・私の日本語学習の大きな助けになりました
- ・日本人の皆さんから、日本語を学ぶモチベーションをもらいました。

### ○研修の受講者

- ・入門講座、フォローアップ研修と段階的に理解が進みよかったです。
- ・実際に外国の方と教室が実践できてボランティア開始後のイメージができました。
- ・まだあまり日本語が話せない方との交流の難しさを感じました。
- ・オンラインなので話が伝わりづらかったです。
- ・オンラインでも人と繋がれることが分かりました。
- ・次の活動に繋がる団体が生まれるきっかけとなりました。
- ・今後も日本人・外国人問わず地域の人と交流していきたいです。

## 講師より

様々な日本語ボランティア教室の在り方があると思います。このフォローアップ研修講座では、入門講座から引き続き「私のことを伝え合う」ことを大切に教室活動作りを考え、実践していきました。途中からオンライン開催にもなり、まさに試行錯誤でした。しかし受講生の皆様や、学習者の皆様の主体的な参加のお陰で、様々な「わたし」を伝え合える場を作ることができました。様々な「わたし」と「わたし」の間にあることばに正解はありません。お互いに伝えたい、理解したいという気持ちに支えられたことばは、とてつもなく大きな力をもっていると思います。新しいこれからの展開もとてもワクワクします！

講師 長嶺倫子

## 講師アシスタントより

今回は日本語教室の研修に参加することができて光栄です。この特別な時期に、疫病で日本語を学ぼうとする外国人は日本語を学ばなくては仕事に参加することも難しくなります。今回の日本語教室は zoom という形で外国人の方に提供する便利でスピーディーなものです。インターネットさえあれば、どこにいても気軽に日本語を学べる。今回の日本語研修は、先生が学生の日本語のレベルに合わせて日本語を使いこなすことができると感じました。初心者にはできるだけ簡単な語彙で、ある程度日本語の基礎を持つ学生は敬語を使うのも良いかと思いました。

講師アシスタント 薛 芳芳

≪「瀬谷区日本語ボランティア入門講座」の講師からもコメントをいただきました。≫

楽しくなければつなげられない、日々の役に立たなければ続かないという思いで、「やさしい日本語」を使い、瀬谷という地縁の利用に気づけるよう、関わらせていただきました。オンラインでハイブリッドという開催形式でしたが、その経験が今後の活動にも生かされるようです。地縁を活かしつつ、日本語を間に置いて、向き合うかた同士、お互いの違いを知り、認め合い、学び合う経験ができるよう、応援しています。

瀬谷区日本語ボランティア入門講座（第2回担当）

講師 坂内泰子

入門講座は会場での対面参加者とオンライン参加者の両方を zoom 画面でつないで進められました。瀬谷区の職員、ヨークの担当者、講師の三者が力を合わせることで、このローカルでグローバルな入門講座が実現しました。そして、この状況でも（だからこそ）受講生みなさんが、コミュニケーションをあきらめない姿勢でいることを感じました。外国から来た人と地域で共に暮らすために、さまざまな立場の人が力を合わせる、コミュニケーションをあきらめない、その一歩を講座の中で感じることができました。

瀬谷区日本語ボランティア入門講座（第3～5回担当）

講師 武 一美